

3. 復興の記録

(詳細は「資料集」に掲載しました)

発災直後の航空機による緊急撮影および計測の実施後、車両から撮影した全周囲パノラマ画像(360度映像)や地上定点観測写真なども含め、6月に発足した「震災復興事業対策本部」のシステムWG撮影成果の中でデータを整理した。複数の手法による定期的な観測は10年間、当社の定めた計画のもと、継続して実施された。

【蕪嶋神社：青森県八戸市】

蕪嶋はウミネコ繁殖地として国の天然記念物に指定されており、東日本大震災を契機に、2013年5月に創設された三陸復興国立公園の北端に位置しています。また、環境省により復興を後押しするために創設された「みちのく潮風トレイル」(青森県八戸市～福島県相馬市)の起点でもあります。

1269年創建と伝えられる蕪嶋神社は、八戸のシンボル、また、商売の神様、漁業の神様として永く信仰を集めてきましたが、2015年11月5日未明に発生した火事により社殿が焼失しました。その後、全国からの支援により、2020年3月に再建されました。



震災直後の蕪嶋神社
2011年7月23日撮影



三陸復興国立公園創設
2013年5月25日撮影



みちのく潮風トレイル開通式
2013年11月30日撮影



社殿が焼失した蕪嶋神社
2015年11月7日撮影



蕪嶋神社遠景
2016年6月26日撮影



新社殿造営上棟祭
2018年8月5日撮影



新社殿完成
2020年3月26日撮影

地上写真は、東北支社の山田一民が、主に土曜日曜を使って撮影している。青森県八戸市(種差海岸)をスタート地点として南下、2011年8月には釜石市付近まで終了した。その後も現場の状況を確認し、定点にすべきところを探索しながら広めに歩いた。

【田老地区ほか：岩手県宮古市】

宮古市は、岩手県の三陸海岸に面し、岩手県最大の面積を有します。市内には、本州最東端の鮭ヶ崎、リアス式海岸の名勝「浄土ヶ浜」、田老の「万里の長城」と呼ばれた長大な防潮堤があります。東日本大震災では、海に近い場所にあった市役所本庁舎や津軽石出張所も津波により被災しました。巨大津波は、田老の防潮堤をも超え、また、隣接する盛岡市との境に源をもつ閉伊川を遡上し、宮古市内の各所に津波被害をもたらしました。



田老地区海岸(2011年10月21日撮影)



田老地区海岸(2014年3月11日撮影)



田老地区海岸(2020年3月19日撮影)



三陸鉄道全線運行再開
島越駅 2014年4月6日撮影



震災遺構 田老観光ホテル
外観 2016年4月2日撮影



地震による地殻変動を示すモニュメント
震災遺構敷地内 2016年4月2日撮影



東京オリンピック聖火：岩手県「復興の火」
宮古会場 2020年3月22日撮影

【旧役場庁舎：岩手県大槌町】

旧役場庁舎では大津波の襲来により、当時の町長を含む28名の職員が犠牲になりました。震災遺構として保存すべきかどうかについて賛否両論がありましたが、2019年3月に解体・撤去されました。



大槌町町方地区(2014年3月14日撮影)



大槌町町方地区(2020年3月19日撮影)



震災前の役場庁舎
2003年12月5日撮影



被災直後の様子
2011年5月1日撮影



被災後約半年
2011年8月7日撮影



ガソリンスタンドがみえる
2012年6月30日撮影



お盆を迎え、慰霊する人々
2013年8月17日撮影



一部解体工事着手
2014年4月12日撮影



本体解体工事着手
2018年6月17日撮影



本体解体工事終了
2019年2月3日撮影



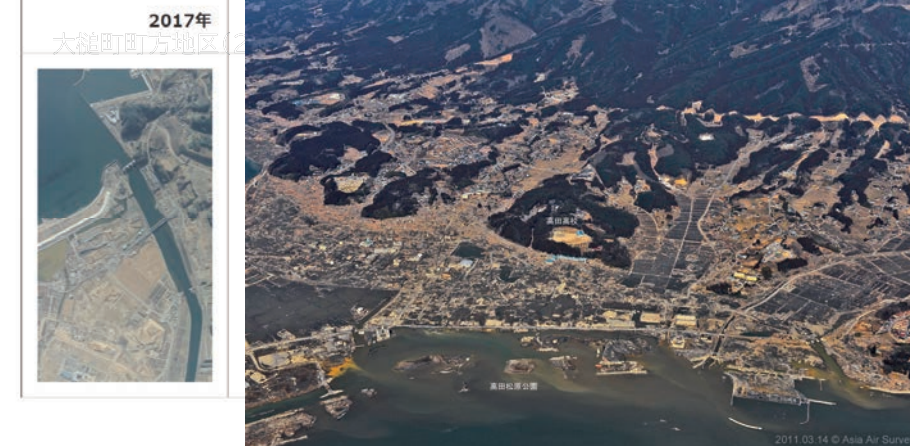
整地後の跡地
2019年7月20日撮影

【奇跡の一本松：岩手県陸前高田市】

廣田湾に面する高田松原には350年にわたり植林されてきた約7万本の松林がありましたが、東日本大震災の大津波になぎ倒され、壊滅状態となりました。その中であって、津波に耐えて残った1本の松が注目され、「奇跡の一本松」と呼ばれるようになりました。しかし、生育環境は厳しく、懸命の保護活動が行われましたが、2011年12月に回復が困難と判断されました。

「奇跡の一本松」は2012年5月に枯死が確認された後、国内外から寄せられた募金をもとに、陸前高田市がモニュメントとして保存整備し、復興のシンボルとして受け継いでいくこととなりました。

被災地モニタリング 廣田湾



大槌町町方地区(2017年)

陸前高田市高田地区(2011年3月14日撮影)



被災前の高田松原
2004年8月16日撮影



奇跡の一本松
2011年9月4日撮影



奇跡の一本松 竣工式典
2013年7月3日撮影



切断工事
2012年9月12日撮影

【釜石鵜住居復興スタジアム：岩手県釜石市】

海岸から約500m、鵜住居川河口近くに位置し、スタジアムを建設する前は釜石市立鵜住居小学校と釜石市立釜石東中学校がありました。東日本大震災では、津波により校舎が全壊・浸水しましたが、鵜住居小と釜石東中の児童・生徒たちは日頃の防災教育を実践し、協力しながら率先避難行動をとって犠牲者を出さずに済みました。このことが「釜石の出来事(奇跡)」として世界に紹介されましたが、その現場でもあります。

釜石市はかつて日本選手権7連覇を成し遂げて「北の鉄人」と呼ばれた新日鐵釜石(当時)の地で、ラグビーが盛んな町であったことから、ラグビーワールドカップ2019日本大会を復興のシンボルとして、子供たちに夢と希望と勇気を与えるため開催都市に立候補し選ばれました。スタジアムの無かった釜石市は、防災を象徴するこの場所に新たなスタジアムを整備したものです。



釜石東中学校の様子
2011年8月7日撮影



建設着手前
2015年4月8日撮影



建設中
2018年6月3日撮影



オープニングセレモニー
2018年8月19日撮影



ラグビーワールドカップ(RWC)
会場完成 2019年7月28日撮影



RWC日本大会2019公式戦:釜石会場
2019年9月25日撮影



釜石市片岸鵜住居地区
(2020年3月19日撮影)

【鉄の街釜石：岩手県釜石市】

2014年4月12日から蒸気機関車C58-239が牽引する「SL銀河」が釜石線(花巻～釜石間)の運転を開始しました。JR東日本(株)盛岡支社が被災地支援、動く産業遺産としての保存を目的に行ったものです。

2015年7月、「明治・日本の産業革命遺産製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の構成資産としてユネスコの世界遺産に登録されました。この街が産業的に大きな役割を果たしたことが認められました。



SL銀河運行開始式典 出発式 花巻駅
2014年4月12日撮影



釜石駅到着 歓迎を受けるSL銀河
2014年4月12日撮影



橋野鉄鉱山世界遺産登録
2015年7月12日撮影

【2016希望郷いわて国体：岩手県北上市・釜石市他】

東日本大震災の被災地で行われた初めての国体、「第71回国民体育大会 2016希望郷いわて国体～東日本大震災復興の架け橋～」が2016年に開催されました。総合開会式は北上総合運動公園で行われ、釜石市の根浜海岸ではトライアスロン競技が行われました。トライアスロン競技は、この回から国体競技の正式種目となりました。



開会式 北上市
2016年10月1日撮影



トライアスロン(水泳) 釜石市
2016年10月2日撮影



トライアスロン(自転車) 釜石市
2016年10月2日撮影

【東日本大震災殉職消防団員顕彰碑除幕式：岩手県釜石市】

発災時、堤防の水門等を閉鎖する役割を担っていた地元消防団員が作業中津波に巻き込まれ、犠牲になる痛ましい事故が発生しました。岩手県ではこの経験を活かし、津波時には衛星通信ネットワークを利用して水門等を自動的に閉鎖する仕組み(岩手県水門・陸閘自動閉鎖システム)を構築し、運用を始めています。



黙祷 2019年3月24日撮影



除幕 2019年3月24日撮影



献花 2019年3月24日撮影

【JR大船渡線鹿折唐桑駅前：宮城県気仙沼市】

震災直後、気仙沼漁港から750mほどの位置にある駅前には、津波によって運ばれた大型巻き網漁船第18共徳丸(全長60m、総トン数330t)の姿があり、訪れる人々の注目を集めていました。気仙沼市は津波の教訓を後世に伝える震災遺構としての保存も検討しましたが、時間の経過とともに二次災害の危険が懸念され、震災発生から2年半後の2013年9月、やむなく解体撤去されました。

津波被害と地盤沈下で壊滅した旧市街地42haの復旧は2013年7月に着工し、最大5.5mかさ上げを行い、2019年9月に完成しました。



気仙沼市鹿折地区(2020年3月19日撮影)



鹿折唐桑駅前に打ち上げられた漁船
2011年5月15日撮影



漁船がまだ残る 2011年9月10日撮影

【鹿折地区被災市街地復興土地区画整理事業】



2014年7月13日撮影



2015年4月12日撮影



2016年3月6日撮影



2017年1月1日撮影



2019年3月16日撮影



竣工式 2019年9月28日撮影

【気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館：宮城県気仙沼市】

海岸から約500mに位置する県立水産系高校である宮城県気仙沼向洋高等学校は、東日本大震災津波により校舎4階まで水没するなど甚大な被害を受けましたが、当時学校にいた生徒・教職員は全員無事でした。その後、生徒は2018年8月、新校舎に移転するまで仮設校舎での生活を余儀なくされました。

学校の校庭は一時期、災害がれきの処理施設が設置されていましたが、校舎は震災当時のまま震災遺構として保全され、2019年3月10日、「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」としてオープンしました。震災遺構の中でも、震災当日の被災した校舎の状態がそのまま保存され、内部を歩いて見学できる数少ない施設です。



気仙沼市岩井崎地区(2011年3月14日撮影)



気仙沼市岩井崎地区(2020年3月19日撮影)



気仙沼向洋高校
2011年5月14日撮影



階上地区二次仮置き場設置
2013年1月19日撮影



気仙沼処理区仮設焼却場撤去
2014年3月16日撮影



震災遺構 気仙沼向洋高校
2017年7月2日撮影



気仙沼向洋高校・伝承館建設中
2018年8月24日撮影



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
オープン 2019年3月10日撮影



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 展示物

【震災遺構 旧防災対策庁舎：宮城県南三陸町】

防災対策庁舎は行政施設の一つとして整備され、海岸から約600m、海拔1.7mに位置する高さ12mの鉄骨造ほか3階建ての建物でした。当日は15.5mの大津波が襲来し、屋上に避難した町職員33名を含む43名が犠牲となり、骨組みと各フロアの床、屋根だけが残されました。

解体か保存かをめぐる議論が続く中、2013年9月、南三陸町は2013年度内解体方針を示し、解体前最後の慰霊祭を2013年11月2日に実施しました。一方、宮城県は震災遺構の保存に関する国の支援策を受け、被災自治体同意の下、「宮城県震災遺構有識者会議」を設置しました。2015年1月に出された報告書には「特段に高い価値があり、時間をかけて検討すべき」という意見が付け加えられました。これを受け、南三陸町の合意形成手続きと宮城県との調整を踏まえ、2031年まで宮城県が保存管理することになりました。



南三陸町志津川地区(2011年3月14日撮影)



南三陸町志津川地区(2014年3月12日撮影)



南三陸町防災対策庁舎
2011年9月23日撮影



2年半後の防災対策庁舎
2013年9月28日撮影



解体前の最後の慰霊祭
2013年11月2日撮影



県管理前の保存工事
2016年12月29日撮影



南三陸町震災復興祈念公園
名簿安置の碑 2019年12月17日撮影



南三陸町震災復興祈念公園
2019年12月21日撮影

被災地モニタリング <https://www.ajiko.co.jp/ecophoto/>

東日本大震災により被災した地域の自然環境を中心とした再生状況をモニタリングし、復興事業や自然再生事業、学術研究など多くの分野で活用していただくことを目的に、2020年まで毎年1回空中写真撮影によるモニタリングを実施しました。

【南三陸町役場再建：宮城県南三陸町】

旧役場庁舎は東日本震災津波により全壊し、多くの犠牲者をだしました。プレハブ仮設庁舎での執務が続きましたが、6年5ヶ月を経過したようやく本庁舎が完成しました。



南三陸町志津川地区(2020年3月18日撮影)



南三陸町役場新庁舎
2017年9月3日撮影



南三陸町役場開庁式
2017年9月3日撮影

【「仮設さんさん商店街」から「本設さんさん商店街」へ：宮城県南三陸町】

「仮設さんさん商店街」は震災発生から5年9ヶ月の2016年末で営業を終了しました。2017年3月には高台に設置された「本設さんさん商店街」に移転して営業を再開しました。隣接して道の駅を整備中です。

商店街のそばにはチリから送られたモアイ増が設置されており、震災復興を願い見守り続けています。



仮設さんさん商店街を見守るモアイ像
2016年12月25日撮影



新設されたさんさん商店街
2017年3月24日撮影

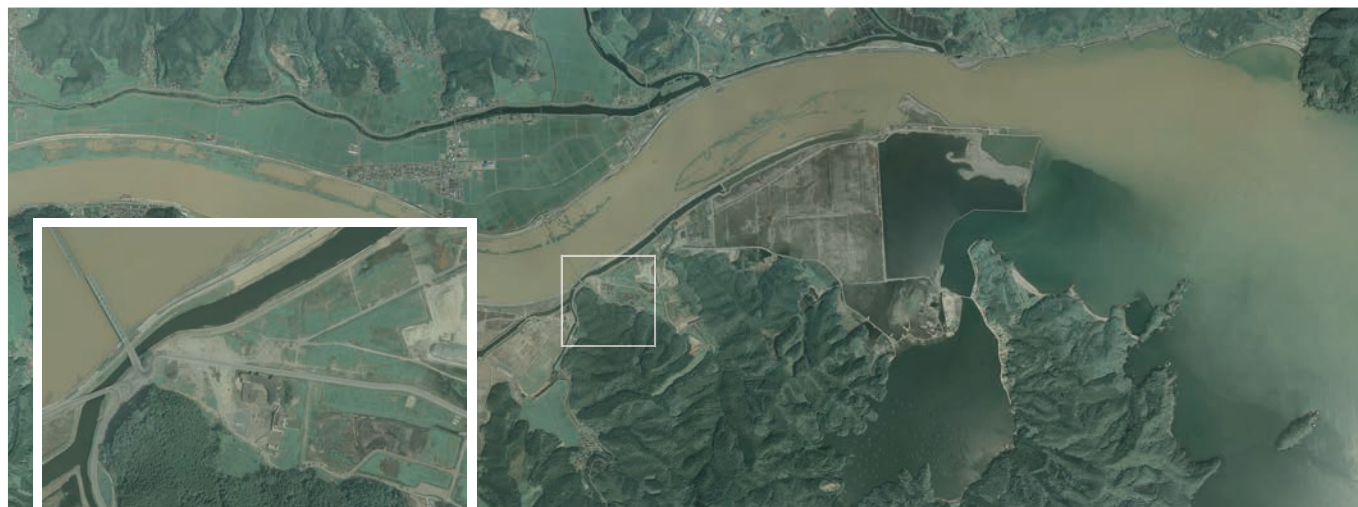


さんさん商店街オープニングセレモニー
2017年3月24日撮影

【震災遺構 大川小学校:宮城県石巻市】

大川小学校は北上川河口から約5kmのところに位置し、震災発生時には在学108名の児童の3分の2にあたる74名、教職員13名中10名、合わせて121名中84名が津波の犠牲になるという、大惨事が発生しました。遺族の一部が石巻市と宮城県を相手に起こした損害賠償を求める民事訴訟の仙台高裁判決で、学校側が地震発生前の対策を怠ったことが惨事につながり、指導する立場の市教育委員会も是正させる義務を怠った、として総額14億3617万円の支払いを命じました。この事例は、教育現場における災害対応のありかたを大きく変える契機となりました。

2016年3月、石巻市は大川小学校を震災遺構として保存する決定を行い、2020年度末の完成を目指し周辺を公園として整備するとともに、展示施設や慰霊碑を設置するなど準備を進めています。



上:被災地モニタリング 北上川河口モザイク(2013年8月撮影)
左:大川小学校跡 (拡大)



校舎跡 2011年10月2日撮影



学校跡地 2012年10月14日撮影



慰霊碑建立 2014年1月18日撮影



大川語り部の会 2018年1月28日撮影



大川小学校閉校 2018年2月24日撮影



震災遺構工事中 2020年8月22日撮影

【雄勝地区 :宮城県石巻市】

雄勝地区は半島にある集落で、「日本一美しい漁村」の一つです。震災前は漁港の背後地に集落が形成されていましたが、大津波により甚大な被害を受けました。

「LIGHT UP NIPPON」は、毎年8月11日に開催され、東日本大震災で亡くなった方の「追悼」と大きな被害を受けた地域の「復興」を祈って花火を打ち上げます。東北の産業を応援、支援するイベントや出展も全国各地で行われます。2011年から毎年続けられており、2019年は全国16都道府県全24箇所で行われました。石巻市雄勝町大須会場では、2013年にスタートした「大須浜祭り」と併催され、地域になくてはならない夏的一大イベントとなっています。

【中央公民館前】 南三陸にある車庫から流された南三陸観光バスが公民館の屋根の上に載っていた



2011年5月8日撮影



2012年6月20日撮影



2015年5月17日撮影

【石巻市立雄勝病院】 患者42名、病院関係者24名、合わせて64名もの尊い命が津波の犠牲になった



2011年9月25日撮影



2015年5月17日撮影



2020年5月10日撮影



雄勝情報交流館開設・おがつ店こ屋街
移転記念式典 2016年6月4日撮影



おがつ海産物直売所(本設商店街)
2020年5月30日撮影



LIGHT UP NIPPON 2019
灯籠流し 2019年8月11日撮影



LIGHT UP NIPPON 2019
花火 2019年8月11日撮影

【大曲浜地区被災市街地復興土地区画整理事業：宮城県東松島市】

この地区は東側を石巻港に隣接し、南側は石巻湾から約400m～1kmのところに位置しています。震災前は一帯に集落がありましたが、震災で6m弱の津波があり壊滅的被害を受けました。東松島市では津波被害の経験を踏まえ、安全な居住地として内陸部に防災集団移転を図るとともに、東松島市津波防災区域の条例(2012.06.01施行)を制定し、沿岸部では建築制限を設けました。条例により当地域は、居住用建物、医療施設や児童福祉施設などの建築が規制されています。このような状況を背景に、防災集団移転跡地の活用に当たっては、宅盤高上げを行い水産・流通業の拠点化を目指した被災市街地復興土地区画整理事業を実施しています。



石巻港・大曲浜(2011年3月12日撮影)



2011年5月7日撮影



2014年11月16日撮影

【大曲浜新橋】



2018年5月6日撮影



2019年5月5日撮影



2020年8月19日撮影

この地区には、東日本大震災のあった2011年から行われている「青い鯉のぼりプロジェクト」という取り組みがあります。享年5歳という若さで津波の犠牲となった弟のために、自宅庭のがれきで見つけた弟の大好きな青い鯉のぼりを空に掲げたことから始まりました。その後、全国に呼びかけて青い鯉のぼりを募り、東日本大震災で亡くなった子供たちが天国で寂しくないように、東松島市の復興のシンボルとして、犠牲者への鎮魂の意味を込めて毎年3月11日から5月5日に掲揚するイベントとなりました。2011年に寄せられた鯉のぼりは204旒、2019年には累計で約2000旒が寄贈されています。



2018年5月5日撮影

【「浦戸諸島」の復興：宮城県塩竈市】

塩竈市の一部である浦戸諸島は、松島湾に含まれる4島5行政区、人口485人、世帯数222世帯(2012.6.30現在)です。東日本大震災での人的被害は、死者2名(寒風沢島)、行方不明者1名(寒風沢島)でした。住家被害は全壊107戸、大規模半壊38戸、半壊37戸でした。松島湾に位置し津波に対する防波堤の役割を果たしたとも言われる浦戸諸島の島々は、湾の入り口で大きな津波を受けたにも関わらず、人的な被害が少なかったのは、島民の日頃の絆と浦戸消防団の適切な避難誘導によるものと言われています。ここでは、人口193人、世帯数82世帯の桂島について、被災から復興への歩みを記録しています。



桂島応急仮設住宅 2011年7月19日撮影



桂島海水浴場 2011年7月27日撮影



浦戸諸島 寒風沢島(2020年3月18日撮影)



住民交流会 2012年8月19日撮影



桂島海水浴場 2012年9月23日撮影



桂島海水浴場清掃 2014年6月29日撮影



桂島海水浴場安全祈願祭
2014年7月2日撮影



旧浦戸第二小学校 仮設住宅
2015年4月26日撮影



桂島地区災害公営住宅 完成
2015年12月25日撮影

【「東部復興道路」及び「避難の丘」整備：宮城県仙台市若林区】

2014年3月工事に着手し、仙台市が「震災復興のシンボル」と位置づける「東部復興道路」は2019年11月30日全線10.2kmが開通しました。開通した高さ約6mのかさ上げ道路は、海岸堤防を越えた津波に対する多重防御の一環として、内陸部の被害を低減する機能をもっています。この道路は当初2019年3月に完成予定でしたが、一部区間での地盤改良工事の追加、令和元年東日本台風(台風19号)による法面損傷により約8ヶ月延期となりました。

東部復興道路の整備に関連し、海側の津波避難施設として5箇所の「避難の丘」が整備され、内陸側には避難道路や津波避難タワーが整備されました。震災遺構「仙台市立荒浜小学校」向かいに整備され、2020年4月27日から利用開始した「避難の丘」は最大規模で、高さ10m、約5300人の避難が可能となっています。



避難の丘の建設現場(上:2019年9月15日撮影、中:2020年5月2日撮影、下:2020年6月13日・完成)
手持ちの一眼レフカメラによるパノラマ写真



東部復興道路工事現場
2013年7月27日撮影

東部復興道路完成通り初め
2019年11月30日撮影

完成した避難の丘
2020年6月13日撮影

<地上定点観測>

2011年秋、青森県八戸市から福島県相馬市に至る沿岸部を対象に、甚大な被害を受けた47地区を選定し、各地区5点を目安に定点を設定して地上定点観測を始めた。その後復興が進むにつれ、防災集団移転事業等により内陸側にも住宅地や各種施設が建設されたことから、定点を増設して観測を進めた。

定点の選定にあたっては、当社が復興事業に関与している場所、今後の防災・減災の参考となる箇所、震災遺構候補地、復興道路及び復興支援道路、グリーン復興関連地点等を考慮した。

地上定点観測記録の活用事例としては、当社が復興事業に関与した宮城県塩竈市浦戸諸島(4島5行政区)に関し、2016年2月、すべての災害公営住宅が整備されたことを期に、震災直後から5年間の歩みを記録写真集にとりまとめ、5行政区長に提供した。また、東北大学災害科学国際研究所の協力依頼に基づき、震災遺構「仙台市立荒浜小学校」のある仙台市若林区荒浜地区(被災地)から荒井地区(集団移転地)に至る地域の動向について、2011年9月より約6ヶ月間隔で記録を行い、その都度成果の提供を行ってきた。

地上撮影担当者(山田一民)の記憶

東日本大震災が発生した2011年3月11日から約1ヶ月、鉄道が被災、自家用車が津波に流され、同じような境遇のみなさんとともに仙台支店仮設避難所で避難生活…。

現地対策本部の一員として、地域統括部長の小原より新百合本社の災害対策本部に定期報告するための被災地情報を集めるよう指示がありました。新聞やテレビ等の情報はありますが、今ひとつ震災の実感が得られないので、自分の目で確認すべく沿岸部を歩きながら、記録用の写真を撮り始めました。シャッターを切る度に黙祷をしているような不思議な気分になったことを思い出します。

この活動にあたっては、国土交通省東北地方整備局、復興庁、環境省東北地方環境事務所、岩手県、宮城県等の東北各県、仙台市をはじめとする被災自治体、東日本高速道路(株)、東日本旅客鉄道(株)、三陸鉄道(株)等のご協力とご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。また、キヤノンEOS学園の中島 剛講師には、折に触れ、示唆に富む助言と励ましをいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

<全周囲映像(360度パノラマ画像)>



当社では、車両に搭載した全周囲映像による東日本大震災被災地の撮影を毎年実施している。被災地の撮影は、震災直後の2011年3月から開始し、2019年11月までに計25回行った。これまでの撮影で総撮影距離6,400km以上の画像を取得した。

2011年は3月、4月、6月、7月、8月に亘り、女川町、石巻市、東松島市、松島町、塩釜市、七ヶ浜町、多賀城市、仙台市沿岸、名取市、岩沼市の被災地域で全周囲映像の撮影を行った。また、撮影した全周囲映像にはプライバシー保護の配慮として、人物・ナンバープレート・表札などにぼかし編集を行い、LVSquareでデータベース化し、一般公開した。

全周囲映像撮影担当者のひとり(本間雄一)の記憶

2011年3月27日から現地に入りました。石巻、女川あたりは魚の加工工場や冷凍保管工場などが多かったため、鼻がおかしくなるほど生臭かったことを覚えています。また、震災直後からボランティアの方々が入り、一部の地域では早い段階から、思っていたよりも活気というか復興への意欲を感じました。

最初のころ、撮影する車は明らかに不審車だと思われたのではないのでしょうか。現地の方にも声を掛けられ、「これなんですか？何をやっているのですか？」などと質問を受けました。1年も経つと珍しくなくなったのか、見向きもされなくなりました。最初の1年目は様々な会社が計測車両(MMS)や撮影車両を走らせていたことも記憶しています。

【東日本大震災追悼式及び追悼イベント：宮城県名取市】

東日本大震災は被害が広範囲に及び、極めて多くの犠牲者が発生するとともに国民生活に多大な影響を及ぼす災害であったため、毎年政府が追悼式を開催してきました。各被災地では、この政府追悼式と連携した追悼式を行うとともに、関係団体等が多様な追悼イベントを行ってきました。

2016年の名取市では、市主催の追悼式の他に、市民団体による追悼イベントが行われました。甚大な被害が発生し、多くの犠牲者が出た関上では、熊本県山鹿市の高校生の皆さんが遠路来られ、山鹿灯籠踊りを奉納してくれました。



東日本大震災名取市追悼式
2016年3月11日撮影



東日本大震災鎮魂 山鹿灯籠奉納
2016年3月11日撮影



関上地区(2011年3月13日撮影)

【新たな関上地区市街地：宮城県名取市】

震災前、名取川河口部にあった関上市街地は津波によって壊滅し、約500m北西の位置に盛土を行って再建しました。公共施設なども整備され、2019年5月に街開きが行われました。また、これまで関上地区に大規模な商業施設はありませんでしたが、2020年7月に大型スーパーを中核とする複合型商業施設が開設され、生活利便性が向上し、街に活気が生まれてきました。

フーズガーデンゆりあげ食彩館オープン 2020年7月1日撮影



名取市関上地区まちびらき 2019年5月26日撮影

【仙台空港 民営化へ：宮城県名取市及び岩沼市】

アメリカ軍は「トモダチ作戦」と称する、東日本大震災被災地での災害救助、救援及び復興支援を内容とする活動を、震災直後から2011年4月末頃まで行いました。仙台空港も海に近い位置にあったことから、大津波の被害を受けましたが、アメリカ軍の支援で災害廃棄物撤去等の支援により、復旧作業が加速化され、早期の運用再開に繋がりました。その後、宮城県は、仙台空港の民間運営による地方中核空港を目指す方針を示し、国土交通省との調整、運営事業者の選定を経て、2016年7月1日に「仙台国際空港」としてオープンしました。これが日本の国管理空港が民営化された初めての事例となりました。宮城県はさらなる利便性向上のため模索してきましたが、2021年3月、地元自治体との合意がとれ、東北初の24時間空港が誕生する予定です。



仙台空港(2011年3月13日撮影)



仙台国際空港運営開始 2016年7月1日撮影

【菖蒲田浜地区ほか：宮城県七ヶ浜町】

七ヶ浜町は、北に松島湾、東と南に仙台湾が広がり、西は貞山堀を隔てて多賀城市と塩竈市に接しています。半島のように海に突き出た地形で、東日本大震災では、震度5強の揺れが観測された65分後、四方から次々と津波が押し寄せ、全町の36.4%に相当する4.8㎢もの町域が波に飲み込まれました。

2017年7月14日、宮城県と七ヶ浜町が平成24年度から整備を進めてきた菖蒲田地区の海岸災害復旧事業、復興道路事業、都市公園事業が完了し竣工式が行われました。復興道路は東日本大震災を教訓に、避難車両がスムーズに通行可能となる幅広の道路としてあります。また、菖蒲田海水浴場で安全祈願祭が行われ、震災後初となる公式の海水浴場が開設されました。



いたるところに散乱するガレキ
2011年3月16日 渡邊 淳 撮影



七ヶ浜町中央公民館避難所での炊きだしボランティア 2011年4月23日撮影



菖蒲田浜地区復旧・復興事業竣工式
2017年7月14日撮影



再建された諏訪神社
2021年2月20日撮影



被災した諏訪神社の一部を震災遺構として後世に伝承 2021年2月20日撮影



被災した五社神社を再建
2021年2月20日撮影



七ヶ浜町(2011年3月23日撮影)



七ヶ浜町菖蒲田地区(2020年3月18日撮影)

【福島県南相馬市】

南相馬市は福島県浜通りの北部に位置します。東日本大震災では、震度6弱の激しい揺れが観測され、沿岸部には津波が押し寄せて多大な被害をもたらしました。東京電力・福島第一原子力発電所の事故により、放射能汚染地域とされた地域には、物資や情報が届かず、住民は大変な苦勞をしました。

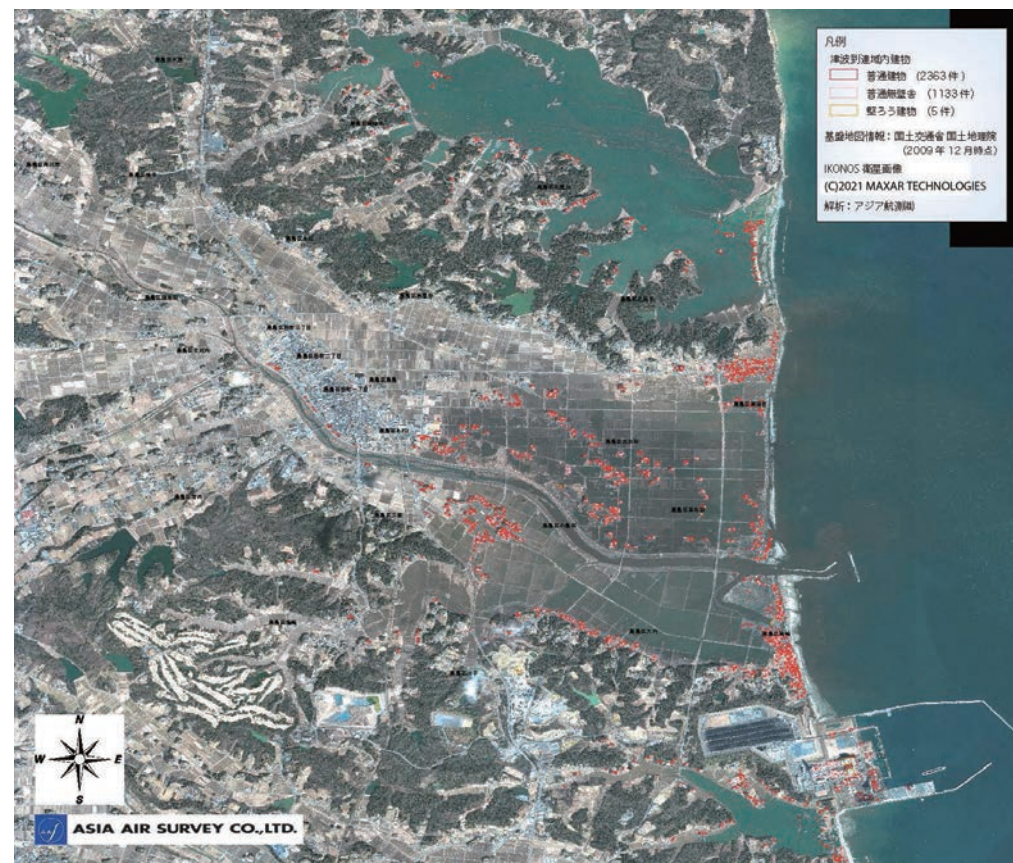
現在では、「ロボットの町」へと変貌を遂げています。



南相馬市鹿島地区(2011年3月12日撮影)



福島ロボットテストフィールド(2020年4月25日撮影)



南相馬市における津波が到達した区域の建物件数の把握

IKONOS衛星画像を用いた津波到達区域と国土院発行の基盤地図情報から、南相馬市における津波が到達した区域の建物件数の把握を行い津波が到達した区域内の建物データと災害後のIKONOSラスターデータ(2011/3/12撮影)を重ね合わせました。

2009年12月25日時点で、建物が存在している個所を把握することができます。

また、災害後の瓦礫の様子を把握することができます。

おわりに代えて

多くの方々と協働させていただきました

■災害アーカイブシステム「みちのく震録伝」ほか： 東北大学災害科学国際研究所

東北大学災害科学国際研究所では、産官学の機関と連携して、東日本大震災アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝(しんろくでん)」を2011年9月から行っています。当社も協力団体の1社として活動しました。自社開発のLVSquareをプラットフォームとした「LVSquareみちのく®」を立ち上げ、地図、航空写真、全周囲画像、地上写真などを搭載し、公開しました。

2015年3月に開催された第3回国連防災世界会議でも、当社は東北大学災害科学国際研究所の展示発表に協賛しました。



第3回国連防災世界会議2015仙台
2015年3月18日撮影

■事業実施：共同提案体・共同企業体・協力企業

東日本大震災による被災現況調査や復興まちづくりなどの多くの業務において、地元企業や当社の株主でもあるアライアンス企業など、多くの方々とともに事業を実施しました。石巻市発注の高台移転防災集団移転促進事業に関わる測量・調査・設計業務を株式会社オオバを含む複数の会社とのJVにより受注し、復建調査設計株式会社から人材の出向を受けて作業を進めました。また、環境省発注の南相馬市除染事前調査(放射線モニタリング調査)業務では日本国土開発株式会社や大成建設株式会社等と共同提案でプロポーザルの特定を受け、作業を実施しました。業務提携先である復建調査設計、日本国土開発、オオバ等とはその他にも多くの案件を共同で取り組ませていただきました。



東日本大震災による被災現況調査(宮城5工区)
塩竈事務所 2011年6月30日撮影

■ボランティア活動：社員・関係者・近隣の店舗等

2011年4月から東北地方の社員の有志はグループ会社の社員や関係者、近隣の飲食店などと協力して炊出しボランティアを開始しました。また、「復興支援PROJECT復興岩手」を立ち上げ、NPO法人や社会福祉協議会と協力し、被災地の子供たちにクリスマスプレゼントなどを贈呈しました。



岩手県山田町折笠避難所 焼き鳥ボランティア
2011年4月23日撮影

ここでは書ききれないほど、多くの方々と協働させていただきました。

ありがとうございます これからもよろしく申し上げます

経営理念

事業は人が創る新しい道である

変革を恐れず、常に勇気と独創心を持って前進しよう

事業は永遠の道である

五年先のビジョンを共有し、三年先の目標に向かって
今年の計画を着実に達成しよう

事業は人格の集大成である

人格は製品の品質に現れる、より高き自己の完成に努め
社風を磨きあげよう

事業は技術に始まり営業力で開花する

新技術の開発力と、営業力の両輪こそが我が社の企業力

事業は社会の為に存続する

地球の未来を創造する我が社の公共性を自覚しよう

事業はより高い利益創造で発展する

誇り高き企業理念の共有と、結束したアジア航測グループ
の総合力で、より高い企業利益を創造しよう

 アジア航測株式会社

アジア航測 東日本大震災より10年 記録誌
「ともに歩む」
(特集編)

2021年3月11日 発行
(第2版)

著 者 アジア航測株式会社
東日本大震災より10年記録誌編集委員会
発行者 アジア航測株式会社

多くの方々とともに歩んだ10年。

詳細資料は、別途資料集として纏めています。

もしよろしければ、下記サイトからご覧下さい。

<https://www.ajiko.co.jp/yomimono/20210311.html>



表紙：高田暁華書 変体仮名による「ともに歩む(登も二歩む)」 上に向って歩むイメージを表現した